

# 「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて ～山形市におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～

発表者

山形市教育委員会 社会教育青少年課  
指導主事・社会教育主事 小林 星太

## 【山形市の概要】（ R7.4.1現在）

人口242,924人 児童数10,608人 生徒数5,663人 小学校36校 中学校15校

## 山形市教育大綱 基本理念

**郷土を誇りに思い いのちが輝く 人づくり  
～山形らしさの継承 発展 そして発信～**



## 〈基本方針 2〉

子ども・家庭・地域・学校の深い「信頼」関係を土台とした、「感動」を引き出す教育、「感謝」の気持ちを育てる教育を実践 し、魅力ある学校をつくれます。

## 〈基本方針 4〉

子どもの人格形成の基盤である家庭と幼稚園・保育所等、 学校、そして地域がそれぞれの役割を果たし連携・協働することによって、教育力の向上と地域社会の活性化をめざします。

## 【経緯】

平成30・31年度 コミュニティ・スクール設置に向けた研究を3校（小2校、中1校）で実施  
令和2年度 研究委嘱校3校に学校運営協議会を設置  
令和3年度 学校運営協議会設置と地域学校協働活動推進員の配置を進める  
令和4年度 市内全小中学校及び商業高等学校で学校運営協議会の設置を完了  
令和6年度 「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰受賞  
（山形市立高楯中学校・高楯地区地域学校協働活動ネットワーク）

## 【関係規則等】

山形市立学校の学校運営協議会に関する規則（令和2年4月1日施行）  
山形市地域学校協働活動推進員設置要綱（令和3年4月1日施行）

## 【その他】

令和2年 山形市コミュニティ・スクール 学校運営協議会設置・運営マニュアル  
令和5年 山形市「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」一体的推進〈学校版〉  
令和6年 山形市コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の手引き〈学校版〉

## 【令和7年度の整備状況】

学校運営協議会・・・市内全小中学校及び商業高等学校に設置済み  
地域学校協働活動推進員の配置・・・小中学校51校中41位校に配置（委嘱は38名）



山形市立高楯中学校

### 山形市立高楯中学校

昭和29年に高瀬村・楯山村組合立高瀬中学校から山形市立高楯中学校となりました。校章となっている「むしとりなでしこ」の五弁の花びらは「健康・真理・友情・勤労・自主」からめざす生徒像を表し、二枚の葉は高瀬・楯山の「協力」「融和」の願いが込められています。令和7年度は129名の生徒が在籍しています。



紅花（高瀬地区）



大岡山（楯山地区）

### 高楯地区

山形市北東部に位置する、高瀬地区と楯山地区からなる学区です。

高瀬地区は豊かな緑と里山が織りなす美しい原風景が残る地域です。毎年7月に山形紅花まつりが開催されます。

楯山地区は豊かな自然環境に囲まれ、歴史・文化遺産が豊富に点在する地域です。地域住民に親しまれている大岡山には、50年以上前から楯山小学校の児童が創立記念式に合わせて登っています。



## 山形市立高楯中学校

## 高楯中学校 学校運営協議会

高楯中学校では、熟議によって学校と地域で課題を共有し、「共通の目標」を明確にして学校運営協議会を進めています。また、地域団体からの要望を学校運営協議会で検討し、地域住民等が主体となって実施する「地域学校協働活動」の実施につながっています。

学校運営協議会は学校と地域が一体となり、「どのような子どもを育てたいのか」「どのような地域社会をつくりたいのか」という、学校と地域の共通の目標をめざすものであり、学校と地域でまるごと生徒を育むような仕組みをつくることが大切だと考えています。

地域のみなさんとともに子どもの学びや育ちを支え、将来、地域を支える人材を送り出し、地域社会の基盤づくり、地域社会の活性化を実現することを将来の目標に、「地域の学校」としての学校づくりを進めています。

校長 星川 仁一 氏

熟議においては、様々な立場にある委員全員が積極的に意見を出し合えることがとても貴重です。結論付けるよりも多くの可能性を通じて、一定の方向性を見出せるのが何よりの魅力だと感じています。この熟議を基にした「地域と学校」の活動を通じて、お互いに「巻き込み」「巻き込まれる」といった関係が自然に生まれることがとても大切だと思います。

「人がまち（地域）をつくり、まち（地域）が人をつくる」。そんな思いが地域のみなさんにも子どもたちにも広まっていくことを願っています。

会長 緒方 晴英 氏

## 山形市立高楯中学校

## 熟議と「地域貢献ボランティア活動（生徒会活動）」

令和5年度第2回学校運営協議会で「地域と学校の協働活動について」というテーマで熟議を行い、「中学生が地域で活躍することへの期待」が明らかになりました。ボランティア活動に取組みたい生徒会が地域との検討を重ねて生まれた活動が「地域貢献ボランティア活動」です。高瀬コミュニティセンターでは山形紅花まつりに向けて花壇や紅花畑の整備を行いました。また、楯山コミュニティセンターでは地区文化祭の会場準備を手伝いました。地域住民からの感謝の言葉が中学生の喜びになりました。

## 山形市立高楯中学校

## 熟議と「部活動改革推進委員会」の発足

令和5年度第1回学校運営協議会は「放課後、休日の部活動について」というテーマで熟議を行いました。委員から「私たちのイメージにある昭和の部活動ではなく、新しい学校と地域の形をつくっていく」「子どもの選択肢を増やすことが重要」などの意見が述べられました。地域住民と教職員で構成する「部活動改革準備委員会」が立ち上がり、生徒や保護者、地域住民等の理解を得て実証事業に取り組みました。現在は、「部活動改革推進委員会」と名称を変え、学校と地域がともに新しい部活動の形づくりを進めています。

## 学校運営協議会とたかだて吹奏楽クラブ

この熟議において、地域学校協働活動推進員から「今年度で廃部になる吹奏楽部を地域学校協働活動として実施し、地域に音楽の場を残したい」と、地域の受け皿づくりについて提案がありました。学校と地域の新しい部活動の在り方を熟慮したばかりの委員は、この提案を承認し、地域学校協働活動としての「たかだて吹奏楽クラブ」が誕生しました。中学生2名と小学生4名、高校生以上のサポーターズ約20名が、週に2回高瀬・楯山コミュニティセンターに集まり、音楽を奏でています。



## 高楯地区地域学校協働活動ネットワーク

## 学校運営協議会とたかだて吹奏楽クラブ

## 参加していた中学生の話

吹奏楽部だった兄を見て「私もやってみたい」と憧れていましたが、吹奏楽部がなくなると聞いて、しょうがないとあきらめました。「もう吹奏楽はいいかな」という気持ちでしたが、サポーターズをしていた母に誘われてクラブに入ろうと思いました。

私は人見知りなので、知らない人ばかりの中で経験のないクラリネットを始めるのはとても不安でした。演奏会が決まり、目標ができてからは、みんなと合奏することが楽しくなりました。だんだんとサポーターが増えて、教えてもらえるようになったのは、ありがたかったです。

3年生になって地域のイベントで演奏することになりました。実行委員になり、地域の方や中学生ボランティアと一緒に企画、運営をしました。クラブのロゴを作ったり、司会をしたりと、部活動では経験できないようなことができて、少し成長できたと思います。

楽器を吹けるようになったことに加えて、いろいろな人とのかかわりができたのは地域クラブならではの気がします。

## サポーターズの方の話

吹奏楽部が募集停止になると聞いたのは、吹奏楽部だった息子が2年生の時、高楯中初の東北大会に出場した年でした。実際、部員数は少なかったのですが、「中学生になったら吹奏楽部に入りたい」という小学生もいたので、このまま終わってしまうのはもったいないという気持ちでした。

地域学校協働活動推進員が知り合いだったということもあり、少しでも力になればと立ち上げから参加しました。

まだ発足して日が浅いのですが、文化祭などの地域のイベントで発表したり、テレビや新聞で取り上げてもらったりしています。高楯地区内外の様々な年代の大人の方が集まってきてくれることに感謝しています。

一方で、若い人がなかなか集まらない、送迎の難しさから参加を断念する子どもたちがいるといった状況があります。解決したい課題です。

私は体調に不安があるのですが、子どもたちに教えることにやりがいがあるし、自分のリハビリにもなっているので、無理をしない範囲で楽しく続けていきたいと思っています。

## 高楯地区地域学校協働活動ネットワーク

## 学校運営協議会と地域で子どもを育てる多世代交流（たかせ元気会）

主に高瀬地区の地域住民で構成された地域団体で、平成24年に高瀬地区で「高瀬映画上映会」を開催しました。令和4年度に高楯中学校と高瀬小学校の学校運営協議会、楯山小学校校長の了解を得て、令和5年度から高楯中学校の体育館を会場に、小学生や中学生の参加を募って実施することになりました。映画や音楽に関係することだけではなく、小学生対象のワークショップも行っています。また、運営ボランティアとして中学生や高校生が参加しています。子どもや若者、子育て世代の含めた、全ての世代の地域住民の交流の場となっています。

## 学校運営協議会と地域で子どもを育てる多世代交流（たかせ元気会）

### たかせげんきまつりにボランティアとして参加した中学生の話

空いている時間を人のために使いたいと思ってボランティアを始めました。「ありがとう」と言ってもらったときに、やってよかったと思います。自分の行動が誰かの楽しみにつながることにやりがいを感じます。

私は人と話すことが苦手でした。少しでも自分を変えたいと思い、ボランティアに応募しました。取組んでいるうちに、広い世代の人と接することや自分のできることが増えていくことがとても楽しく、嬉しくなりました。これからも地域貢献や自分の成長のためにがんばっていきたいです。

人の輪に入ることが苦手な私に、ボランティア活動を通して何かのきっかけになればと、母に勧められて始めたところ、ボランティアの楽しさや嬉しさを感じる事がたくさんありました。小さい子どもや高齢者の方の笑顔がたくさん見ることができ、「ありがとう」という言葉をもらったときに自然と私の心も笑顔になります。

### たかせ元気会沼澤氏の話

結婚してここに来た「よそ者」である私たちは、地域の人とのつながりがなく、孤立しているような不安を感じていました。「共通の話題をつくってかかわりをつくろう」と考えた私たちは、あるきっかけで映画上映会を始めることにしました。同じ世代のお父さん、お母さんたちと一緒に運営し、「社会経験にもつながれば」という思いから、子どもたちにも手伝ってもらいました。活動を続ける中で「こんな人がいる。地域っておもしろい！」このように思える出会いがたくさんありました。

原点である「多世代交流」の思いをメンバーで再確認し、コロナ禍後は子どもたちにスポットを当てた活動に取り組んできました。ボランティアの中学生の姿を見て、「こんなことができるんだ！」と驚くと同時に、子どもたちの本当の力を知らなかったことに気が付き、自分が恥ずかしくなりました。中学校を卒業してもボランティア来てくれる子もいます。子どもたちの活躍と成長が一番の喜びです。

地域団体とのつながりもできました。個と個のつながりから「面と面」に広がっています。また、子どもと大人の距離が近くなり、年齢差に関係ない信頼関係ができていることを感じています。

## 教育委員会の事業

### 【令和7年度の社会教育青少年課の主な事業】

- ・地域とともにある学校づくり研修会（教職員対象）
- ・学校を核とした地域づくり研修会（学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、地域住民等対象）
- ・出前講座
- ・取材と「社教ニュースときたまご」による情報提供
- ・地域学校協働活動推進員情報交換会

## 熟議の充実

### 【熟議のテーマの例】

- ・地域とつながる学校のあり方
- ・地域を学ぶ教師、地域の中で育つ子ども
- ・少子化に伴う今後の教育活動のあり方
- ・山形に根差したウェルビーイング
- ・放課後の子どもの居場所



## 学校運営協議会「熟議」によって生み出された地域学校協働活動

R7年度 バスガイドを募り「大好きな高瀬の魅力を伝えるプロジェクト」（高瀬地区）

児童の減少や授業時数の確保などにより、学校では教育活動として実施することが難しくなった紅花まつりでのバスガイドを、学校運営協議会の熟議を経て、令和6年度から地域が主体となって実施している。

R7年度 大曽根地区放課後子ども教室  
そねっこクラブ

学校と地域の課題になっている放課後の子どもの居場所について、学校運営協議会で熟議を重ね、令和7年度からコミュニティセンターを会場に、地域が主体となって実施している。



## 夏休み中の子どもの学びの場づくり

約1か月間の夏休みの間、小中学生は家庭や地域など、社会の中で学ぶ機会が増えます。市内の公民館やコミュニティセンター等では様々な体験のプログラムを実施しています。また、学校の宿題や自主学習のサポートも行っています。

地域住民が子どもたちの学びを支える「地域の中の学びの場」を御紹介します。

### ～夏季休業中の学習会（山寺小中学校運営協議会）～

令和6年度から山寺小中学校の児童生徒を対象に、学校運営協議会が主催となって開催しています。今年度は夏休み中に4回開催しました。第1回の8月1日（金）、中学2年生と3年生の生徒が山寺コミュニティセンターに訪れ、およそ2時間、夏休みの学習や自主学習に取り組みました。

サポートするのは、山寺小中学校に勤務したことがある元教員、「山寺を愛する教師の会」の方々です。「当時、保護者や地域の方々にお世話になりました。本当に感謝しています。学習会は恩返しのつもりでやっています。」「子どもの成長を見ることが楽しみになっています。」「学校ではなく地域で行うことで先生方の負担減につながるのではないかと思います。」と話していました。「私たちは山寺の応援団」と言うメンバー全員が温かい目で子どもたちを見守っていました。

### ～夏休み寺子屋塾（江南公民館・退職公務員連盟）～

退職公務員連盟で15年ほど前から寺子屋塾を開催し、平成29年度から江南公民館との共催事業として長期休業中に開催しています。今回が39回目になります。市内から7名の元小学校の教員が参加し、子ども達の交流の場づくりと学習サポートを行いました。

「夏休みはどんなことをするの?」という問いかけに、ある女の子は「地域の夏祭りでは太鼓の演奏をします。今練習をしています。」と話しました。

学習開始からおおよそ50分、ちょうど子どもたちに疲れが見え始めたタイミングで、折り紙や画用紙を使った工作タイム、「箱づくり」が始まりました。子どもたちは集中力を取り戻し、夢中になって取り組みました。

### ～2025 寺子屋塾（高瀬コミュニティセンター）～

コミュニティセンターの事業として昨年度から開催しています。今年度は8月12日（火）にたかせこクラブ（放課後児童クラブ）を中心に22名の子どもたちが参加しました。サポートするのは地域に住む2名の元小学校の教員と2名の中学生ボランティア（第三中学校、高瀬中学校）です。

前半は夏休みの宿題などに取組み、後半は、昨年地域に住んでいるタイ出身の方との交流を楽しみました。子どもたちはタイ語のあいさつやじゃんけん挑戦し、タイのおやつを食べながらタイの暮らしについて学びました。

サポートとして参加した元小学校教員は「子どもたちが真剣に、集中して学習する様子に感心しました。外国人との接点が少ない高瀬地区の子どもたちが、身近なところで国際交流ができました。小学生と中学生の交流も大事にしていきたいです。」と話していました。

### ～夏休みコミセンで宿題をしよう（西山形コミュニティセンター）～

コミュニティセンターの事業として、夏休み中に2回開催しました。2回目の8月22日（金）は全校児童のおおよそ6割の子どもが参加しました。とかみこどもクラブ（放課後児童クラブ）がコミュニティセンター内に設置されており、参加者のほとんどはクラブに在籍している子どもたちです。地域に住む元小学校の教員3名が宿題や自主学習をする子どもたちをサポートしました。

参加した6年生の女の子は「今まで何回も参加しています。先生の顔を覚えたので、地域で会ってもわかります。先生たちは優しいので質問しやすいです。教えてもらうとよくわかります。」と話していました。

もともと学習会はコミュニティセンターと地域住民によって行われていました。西山形小学校がコミュニティ・スクールになった現在は「地域学校協働活動」として実施しています。学校運営協議会等で学校と情報を共有しています。

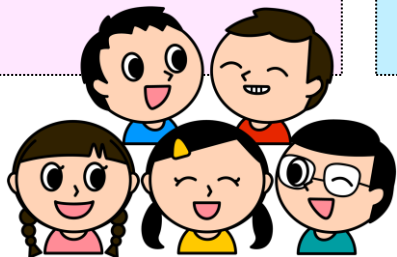
このような取組によって、子どもたちはもちろん地域や学校にもよい効果が生まれることが期待できます。地域と学校が連携しながら、「学校を核とした地域づくり」を進めていただければと思っています。

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。



### 〈子どもの声〉

- ・地域の方が体調を心配してくれたり、励ましてくれたり、温かく声をかけてくれた。
- ・普段できないような経験だったのでとても新鮮だった。
- ・車に乗っていると見れないものを今日は見る事ができた。
- ・自分の行動が誰かの楽しみにつながることにやりがいを感じている。
- ・広い世代の人と接することや自分のできることが増えていくことがとても楽しいし、嬉しい。
- ・「ありがとう」という言葉をもらったときに、自然と私の心も笑顔になる。



### 〈先生方の声〉

- ・子どもの思いや願いを何とか実現したいという思いは教職員も保護者も地域住民も同じ。
- ・推進員と協力し、学校のねらいと地域のねらいをうまく結びつけ、子どもたちのよりよい学びにしていきたい。
- ・子ども達自らが聞く姿勢を高めているように感じます。
- ・読み聞かせのある日の朝は、子ども達が楽しみに待っていることから心にゆとりが持てます。
- ・今日の体験から昔の人の思いや願いを感じ、今自分に何ができるか考え、発信できるよう学習を進めていきたい。



### 〈地域住民の声〉

- ・世代を超えたつながりができる。
- ・子どもと関わることが楽しいし、元気になる。若返る。
- ・活動によって地域の子どもの距離が近くなる。
- ・子どもは地域の宝、学校が廃れば地域が廃れる。子どもたちを地域みんなで大切にしていきたい。
- ・人前で話すことは苦手だが、子どもの前で読み聞かせをすることは楽しい。
- ・子どもの思い、子どもの声は私たちの励みになる。
- ・今日の活動が、みんなが集まるきっかけになった。



**地域とともにある学校づくり と 学校を核とした地域づくり を併せて実現！**